

# バイクレースにかけた 民間チームの情熱

バイクで日本のトップを競うMFJ全日本ロードレース選手権に、参戦するチームが桐生市にある。

OGURACLUTCH with RIDE INは、2018年から2年連続で全日本4位の成績を誇る。同チームの皆さんにレースへの熱い思いを聞いた。

## 大手チームと競い合い 堂々たる成績を残す

疾風のように駆け抜ける何台ものバイクと、響くエンジン音。焼けたオイルの匂いが、熱い声援を送る会場に充満する。バイクレース好きにはおなじみの光景だ。4月から11月にかけて開催されるMFJ全日本ロードレース選手権では、約40のプロチームが全国6会場7レースを走り抜く。

桐生市に本拠地を置くプロバイクチームのOGURACLUTCH with RIDE INは、昨年の7レース総合ポイントで全日本4位を獲得。岡山会場では、2位の表彰台に立つ好成績でシーズンを終えた。当時のチーム構成は、ライダー1人、メカニック2人、スタッフ3人という参加チーム中、最も少ない人数だったという。しかもメンバーは全員が、別の仕事に就いている。大手バイクメーカーが多数参戦するなか、二足の草鞋を履く民間チームの成し遂げた快挙だった。

同チームが立ち上がったのは、2016年。代表兼メカニックを務める坂本崇さんは市内でRIDE INというバイクショップを経営する。以前からライダーの岩崎哲朗さんと親交をもっており、岩崎さんの「もっと自分の力を発揮できるチームでレースに挑みたい」という気持ちに賛同。同じく親交のあった小倉クラ



ゼッケン70番が岩崎哲朗さんのマシン。熱戦のなかでも冷静に状況判断しているという

フリモARで動画が流れます

った。同社の名は四輪車のモータースポーツの世界で、つとに知られている。この技術とバイクチームのスペンサーの立場を生かし、二輪車用クラッチの製造という新事業へ乗り出したのだ。

「二輪車と四輪車では、クラッチの構造がまったく違います」と話すのは、同社に籍を置きチームの一員でもある齋藤大さん。二輪車用クラッチの開発には設計から携わった。

クラッチはエンジンの動力をミッションに伝える。四輪車のクラッチは、いかなる時も動力を伝達するように作られるが、レースの二輪車用クラッチは、一定の条件下でなめらかに動力を逃がす必要があった。齋藤さんが開発し

たスリッパークラッチは、チームの結成後すぐに取り付けられ、改良を重ねて一般用に製品化された。今もライダーからの要望で細かく修正を重ね、齋藤さんを通じて同社の大きな技術的財産として蓄積されている。

## 今年ライダー2台体制に 夢は来年の鈴鹿8耐出場

これまで同チームは、バイク排気量600ccクラスのレースに参加していた。しかし今年から同クラスが廃止になるため、1000ccクラスへの参加を決定。新たにライダーの柴田義将さんが参入し、2台体制でレースに挑む。

同チームの監督でもある岩崎さんは、現在のチームに入りレ

ースへの取り組み方が変わったと自己を分析する。以前は、無理や無茶な気持ちで勝っていたが、「今はバイクの動作状況をメカニックに伝えるため、冷静に走行状態を見ています」と話す。培われてきた判断力はレースをどう組み立てるかにも及び、結果、自身の成績もアップ。昨年はJGP2クラスで4位となり、チームの戦績に華を添えた。

若手の柴田さんにとって、岩崎さんは憧れの存在だ。チームに入るのも初めてのため、最初に話をしたときは緊張したと笑顔をみせる。柴田さんは、「全日本で1000ccの走行経験があるので、チームに還元できるような走りをしてほしいです」と意欲を語り、岩

崎さんも「2人で意見を出し合っで、より良い車体を作りたいですね」と、うなずく。

チームの目標は、日本一の座。今年さらには、来年のFIM世界耐久選手権シリーズ鈴鹿8時間耐久ロードレース、通称鈴鹿8耐への出場を掲げる。レースは2人3人で1台のバイクを乗り継ぎ、8時間を走りきる。これに坂本さんを加えた3人のライダーチームで、走りたいというのだ。

「鈴鹿8耐は坂本社長にとって夢の舞台です。憧れの地へ、私たちが連れて行ってあげたいのです」。知り合ってから10年の、バイクが大好きな坂本さんを思い、岩崎さんの言葉に熱がこもる。鈴鹿8耐への参加資格を得る



2月に行われた2020全日本ロードレース選手権ST1000参戦報告会で、あいさつをする小倉クラッチ株式会社の代表取締役社長の小倉康宏さん



ピットインしてきたマシンを素早く整備するメカニック担当の皆さん



岩崎さんのゼッケン番号が描かれた旗を振って応援する観覧席

### Information

**2020年 MFJ 全日本ロードレース選手権**  
4/4(土)・5(日)  
三重県鈴鹿サーキットより11月まで開催  
<http://www.mfj-livech.com/jrr/>で生中継もされる

フリモAR アプリをダウンロード  
App Store からダウンロード  
Google Play で「フリモAR」を検索  
※AppleおよびAppleロゴは米国その他で登録されたApple Inc. の商標です。App StoreはApple Inc. のサービスマークです。Google Play および Google Play ロゴは Google Inc. の商標です。

にはチームの戦績も重要だが、坂本さん自身も地方の大会で走って戦績を残し、国際ライセンスを取得しなくてはならない。時折、地方大会で走っているという坂本さんの双肩に期待がかかる。現在、同チームは12名体制となったが、まだ大きなチームとはいええない。しかし、意思の疎通は十分に図れていると坂本さんは胸を張る。メカニックは慎重にバイクを組み、ライダーは性能を最大限に引き出す。走って感じた要望を的確に伝え、受け止めてもらい、またバイクのメンテナンスに反映させる。このサイクルが上手くかみ合っているのが自慢だ。一つでも上の順位へ。その先は鈴鹿8耐へ。バイクレースにかけたチームの熱い季節が、いま始まるうとしていく。



クラッチ開発 齋藤 大さん  
ライダー 柴田 義将さん  
監督兼ライダー 岩崎 哲朗さん  
代表兼メカニック 坂本 崇さん



既存のクラッチと違い、強いエンジンブレーキがかかった際に滑るように設計されたスリッパークラッチ